

平成18年9月1日

1 研究主題について

(1) 研究主題

豊かな人間性や確かな学力などの生きる力を身に付けた児童・生徒の育成

(2) 研究主題設定の理由

全教育活動を通して児童・生徒のよさを認め合い、互いに学び、生活し合うという教育環境をつくるということと、発達段階に応じた基礎的・基本的な学力を身につけさせることによって、生きる力の育成を図りたい。

(3) 研究の視点

生徒指導の充実（基本的な生活習慣の育成，いじめ・不登校，学級づくり，家庭・地域との連携のあり方など）  
 確かな学力の育成（基礎，基本の定着をめざした指導と評価，個別指導のあり方，TTや少人数など）

2 研究授業から

第6学年算数科学習指導案略案

男子12名 女子17名 計29名  
 指導者 有村 重輝

題材 分数

題材の目標

分母の違う分数の大小を面積図や線分図で比べたり，分母の違う分数のたし算やひき算を面積図などを使い考えたりしようとしている。 【算数への関心・意欲・態度】

分数の分母と分子に同じ数をかけても，同じ数でわっても，分数の大きさが変わらないというきまりを活用し，分母の違う分数の大小の比べ方やたし算・ひき算の計算の仕方を考えることができる。 【数学的な考え方】

分数の相当や大小を比べる際，約分や通分を使うことができるとともに，異分母の分数のたし算・ひき算の計算ができる。 【表現・処理】

約分，通分の意味，異分母分数の大小比較やたし算・ひき算のしかたが分かる。

【知識・理解】

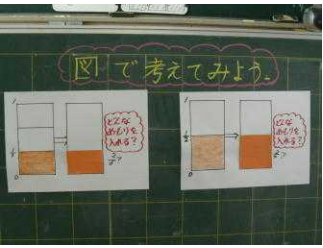
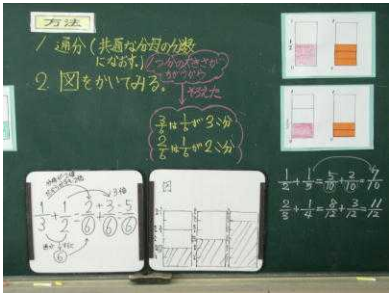
本時の目標（6 / 14）

分母の違う分数のたし算の計算の仕方も，分母が同じ分数のたし算のように単位分数の個数という見方で考えるとよいことに気付き，用いることができる。

【数学的な考え方】

実際

学習過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点
つ か む	1 同分母の分数の練習問題をする。 2 本時の学習課題について知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                         2つの入れ物に，<math>\frac{1}{3}</math>ℓと<math>\frac{1}{2}</math>ℓの牛乳が入っています。これを1つの入れ物にまとめました。何ℓになったでしょうか。                     </div> 3 本時の学習問題を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                         分母のちがう分数のたし算は，どのよにすればよいのだろう。                     </div>	5分	同分母の分数のたし算は，答えが約分できないものとする。 学習課題と一緒に図を提示する。そして，答えが $\frac{2}{5}$ ではないかと問いかける。 答えが $\frac{2}{5}$ でないことを分数模型を使い，確かめる。

見 通 す	<p>4 分母のちがう分数のたし算の仕方を考える。全体 図で考えてみよう。 分母をそろえてみよう。</p>	5 分	<p>自力解決の時間を十分確保するため、分数のたし算の仕方については、教師の方から提示する。「どうして分母をそろえる必要があるの?」と問いかけ、単位が違うことにも気付かせる。</p>
考 え る	<p>5 分母の違う分数のたし算の仕方について考える。自力解決</p> <p>分母を6にそろえるといいね。どうして答えが5/6になるのだろうか。</p> 	2 5 分	<p>自力解決が難しい子どもには、分数の模型を使って操作させたり、ヒントカードを見せたりする。</p>
深 め る	<p>6 分母の違う分数のたし算の仕方について話し合う。全体</p> <p>めもりがついた図は分かりやすいね。通分すると、早くて便利だ。</p>  <p>7 本時のまとめを書く。</p> <p>分母のちがう分数のたし算も同じ分母にすれば、分子が1の分数のいくつ分かで計算できる。</p>	5 分	<p>「2つの考え方は違うの?」と問いかけ、単位を同じにして考えていることに気付かせる。</p> <p>《評価規準》</p> <p>分母のちがう分数のたし算も同じ分母にすれば、分子が1の分数のいくつ分かで計算できることに気付いている。 【数学的な考え方】 算数ノート、つぶやき</p>
ま と め る	<p>8 練習問題をする。 <math>1/2 + 1/5</math> (教科書 P30 練習問題)</p> <p>9 次時の学習について知る。</p>	5 分	<p>本時で学習した考え方が理解できているかどうかを練習問題で確認する。 練習問題が早く終わった子どもは考え方を言葉で書かせる。</p>

### 3 全体協議

#### (1) 協議の視点

考える力，表現する力を身に付けさせる学習指導のあり方  
自ら考え，行動する力を身に付けさせる生徒指導のあり方

(2) 協議

司会者 鹿児島市立鴨池中学校 小島士郎  
記録者 鹿児島市立鴨池小学校 里中由香

授業者反省

- ・ 自力解決の時間が足りなかった。
- ・ 練り上げの部分を淡々と進めてしまった。
- ・ 導入が長すぎたので、練り上げの時間が短くなってしまった。
- ・ 単元の初めの頃は図を描いての表現が今一つだったが、今日は6割の子どもが描いていた。

質疑応答

- ・ 図を描いて表現できる子どもが増えたとのことだったが、通分の授業でも今日のような方法を使ったのか。  
通分の授業でも図を用いて指導した。繰り返し指導していくことで、子ども自らマスの取り方などについて考えるようになっていく。図を描かせるだけでなく、最後は教具を使って視覚的に理解させている。
- ・ 「考える」のところで、早く考え終わった子どもへの対応策は？  
今日はあまりできなかったが、普段は紙やホワイトボードに書かせている。また、ヒントを与えて、さらに詳しく説明できるようにしている。
- ・ ノート指導で気をつけていることは？  
4月からパターンを決めて指導してきた。  
(1前時の復習 2学習課題 3学習問題 4解決方法 5まとめ)
- ・ 小学校算数の分数指導で何か工夫していることや心がけていることがあれば教えてほしい。(中学校より)  
通分をする意味が分からない子どもには、図にして考えさせる。時間がかかっても全員が分かるまで指導している。  
単位分数の考え方をしっかりおさえる。  
計算はできても意味が十分理解できていない子どももいる。意味をしっかりと理解できるよう進めている。  
TT学習で、個に応じた指導ができるようにしている。

意見交換

《鴨池小》

- ・ 「い(行き先)か(帰る時刻)だ(誰と一緒に)で いってらっしゃい」の周知・徹底
- ・ 地域、家庭、学校の密接な連携
- ・ 「総合的な学習の時間」について研修テーマを設定

《中郡小》

- ・ 毎週木曜日に一斉下校を実施  
- 市電、JR、国道に挟まれているため安全確保に配慮
- ・ 研究のサブテーマに「多様な考え方で課題を解決しようとする態度の育成」というのを入れ、ノート指導、評価など具体的な指導に役立つ研修を行っていきたい。
- ・ 「考える力」というものの共通理解が難しい。

《鴨池中》

- ・ 1年生は明るく元気。担任とのふれ合いが学ぶ意欲の向上につながってきたように感じている。
- ・ 落ち着いている。校区の取組が子どもたちを支えているように思う。
- ・ ストレスを抱えている子どもがそれを外に出せずにいるのを感じる。
- ・ 言葉で傷つけたり傷つけられたりしているような気がする。  
意味も分からずに使っているのを感じる。家庭とも連携を取り指導していきたい。

(小学校より)

家庭学習について、中学校ではどれくらいしているのだろうか。

1年 - 内容は宅習1ページと日記、平均1時間。復習は土・日を使って

2年 - 個人差がある。

(中学校より)

- 携帯電話に対する指導
- ・ 今後，実態の把握を。
- ・ 学校への持ち込みはない。

#### 指導講話

鹿児島市立鴨池小学校長 浦口俊裕  
鹿児島市立鴨池中学校長 川野義博

#### 学力向上について

- ・ 心が支えられていると，学力はついてくる。
- ・ 「何が違って，何が同じか」どの教科においても観点をもって見ることで，自分の授業につながる。
- ・ 指導案に子どもたちへの意気込みが表れていた。
  - ア 内容をよく分析している。
  - イ 実態調査がよく生かされている。
  - ウ 内容が明確化されている。
- ・ 中郡小の子どもたちが「きびきび・はきはき・きらきら」していた。
- ・ 繰り返し学び方の指導がされているせいか，子どもたちの反応がよい。
- ・ 教材の分析をするときは，「身に付けるものは何か」と表面にあるものだけでなく，裏にあるものを分析していくとさらに深まる。
- ・ 一単位時間の中味の考え方にも担任の思いが反映されてくる。
- ・ 学習問題と学習課題をどのようにとらえているか。
- ・ 最後のまとめの仕方によって授業も変わってくる。

#### 生徒指導について

- ・ 生徒指導をするに当たって，子どもと担任の間の信頼関係が大事。また，生徒指導を充実させるためには，「分かる授業」を展開しなければならない。「自ら考える力」＝「正しく行動する力」
- ・ 発達段階に応じて支援を行ってほしい。
- ・ 子どもたちに人の話を聞く力を付けていかなければならない。（体・目を向けて聞く。）
- ・ 学校のきまり - 学校で基本線を設け，保護者にも理解してもらわなければならない。そのためにも，繰り返し指導していく。
- ・ できないことは，何度でもやり直しをさせる。（毎日の生活の中で）
- ・ 子どもたちの時間，学級・学年の時間，自己と向き合う時間など大切にしたい。
- ・ 家庭との連携，職員間の連携を深めていかなければならない。